

旭川医科大学 卒後の活動に関する調査

第4回アンケート調査集計結果

実施期間：2024年12月～2025年1月31日

調査対象者：旭川医科大学医学部医学科卒業生 卒後3年目（2022年3月卒業）から卒後10年目（2015年3月卒業）までの607名

調査内容：居住地・勤務地、就業状況、
医療に関する教育・指導等に関するアンケート

調査方法：無記名 Web アンケート調査（対象者に調査説明書を郵送）

回答方法：調査説明書に記載の Web アンケートサイトにアクセスして回答

回答率：6.6%（有効回答数 40、有効送付数 607）

※ 集計にあたっては無回答、無効回答（回答方法を遵守していない等）を除外し、各設問における有効回答数を示す

※ 図表中の用語について

- ・出身地：15歳までに主に過ごした場所
- ・都市部：特別区、道府県庁所在地、政令市、中核市、医科大学・医学部所在地

調査実施：地域共生医育センター

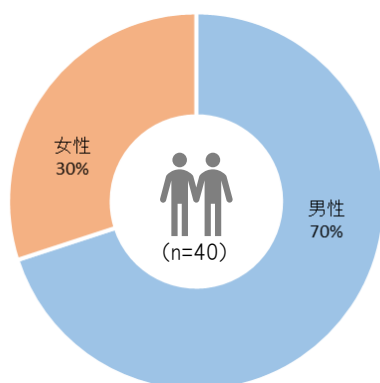
卒業生調査ワーキンググループ

事務担当：総務課企画係

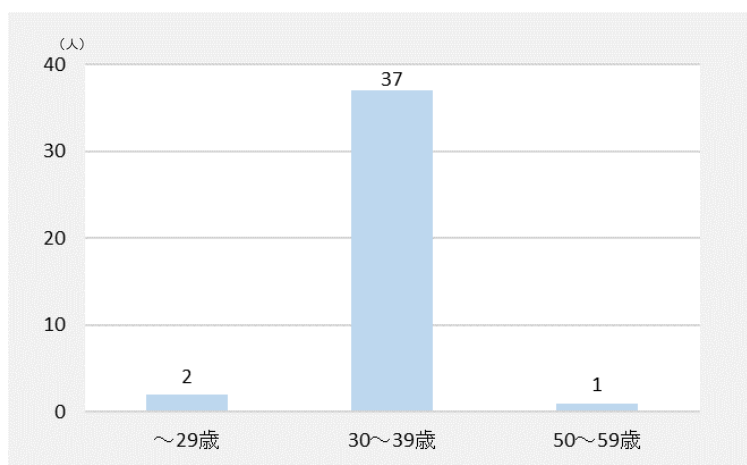
報告書作成：インスティテューショナル・リサーチ室

回答者について

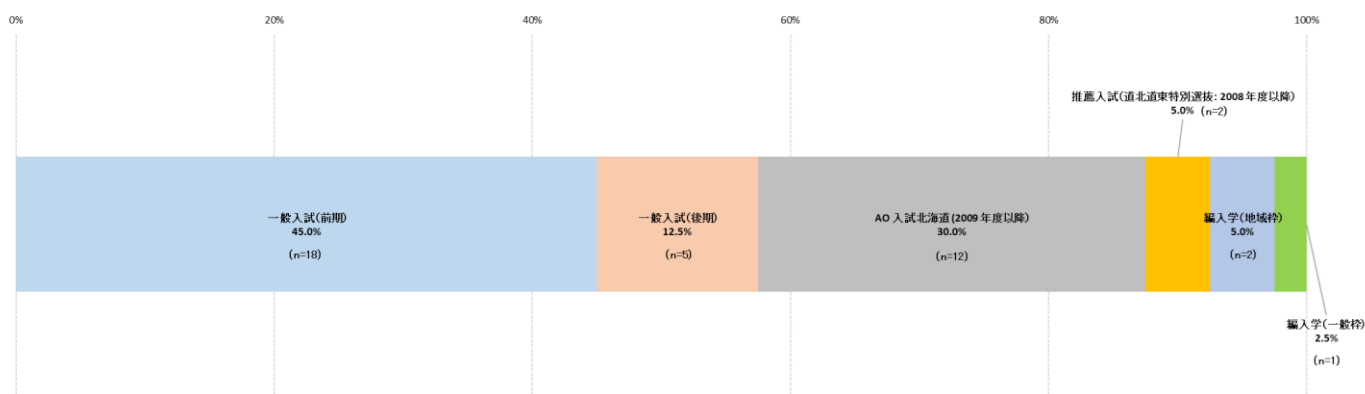
性別 (n=40) 問 2



年齢 (n=40) 問 3



入学時の試験の種類(n=40) 問 5



卒後年数 (n=40) 問 1

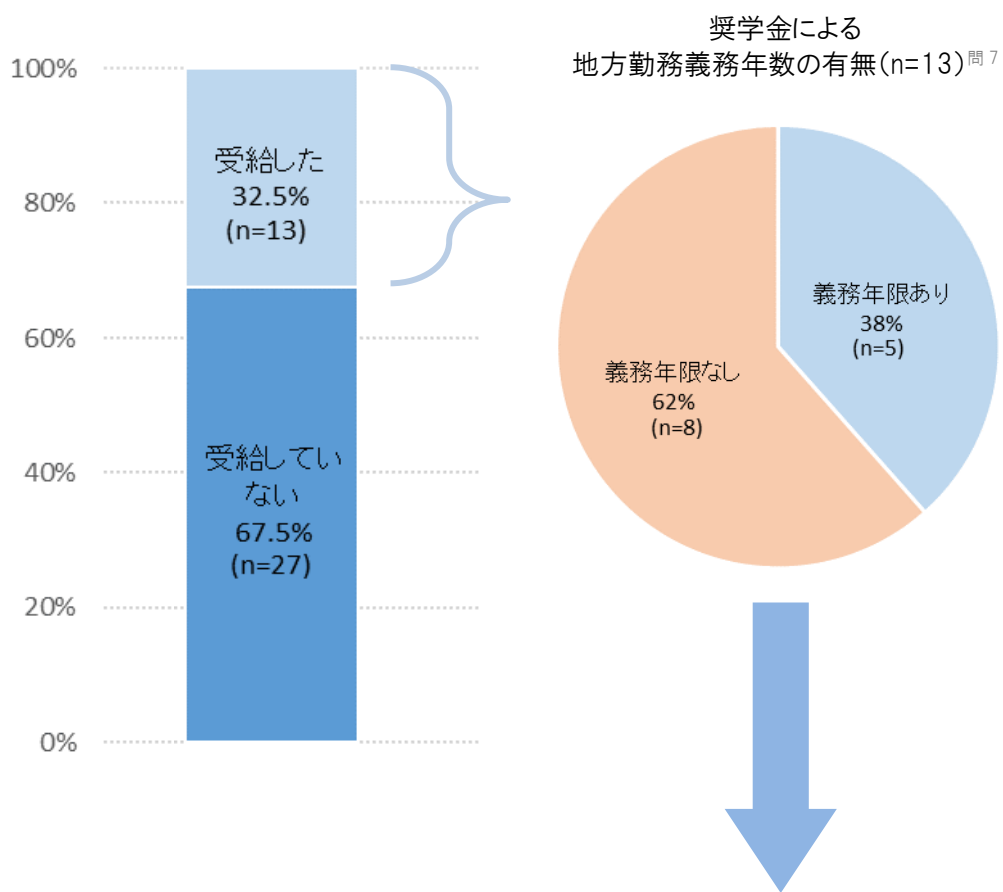
	人数	割合
1. 卒後3年目(令和4(2022)年3月卒業)	3	7.5%
2. 卒後4年目(令和3(2021)年3月卒業)	2	5.0%
3. 卒後5年目(令和2(2020)年3月卒業)	2	5.0%
4. 卒後6年目(平成31(2019)年3月卒業)	6	15.0%
5. 卒後7年目(平成30(2018)年3月卒業)	8	20.0%
6. 卒後8年目(平成29(2017)年3月卒業)	7	17.5%
7. 卒後9年目(平成28(2016)年3月卒業)	8	20.0%
8. 卒後10年目(平成27(2015)年3月卒業)	4	10.0%
合計	40	100.0%

出身地の市区町村(n=40) 問 4

	人数	割合
北海道内	26	65.0%
札幌市	7	17.5%
旭川市	5	12.5%
その他の市	12	30.0%
道内の町村	2	5.0%
道外	14	35.0%
道外の都市部	8	20.0%
都市部以外の市	5	12.5%
道外の町村	1	2.5%
合計	40	100.0%

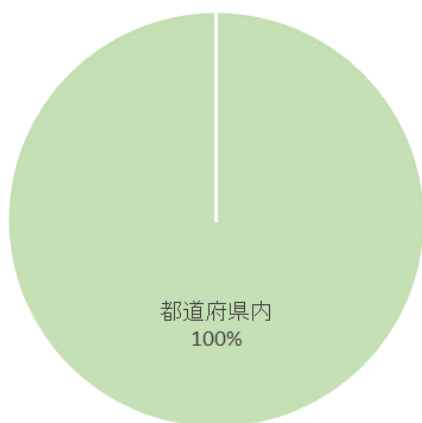
在学中の奨学金受給

奨学金の受給の有無(n=40)^{問6}

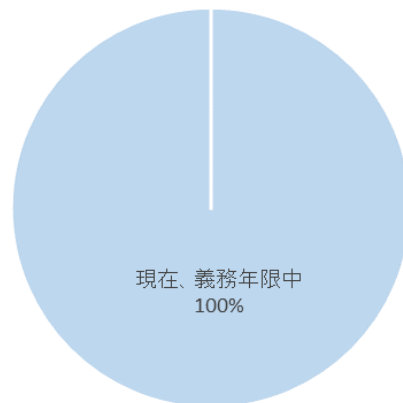


義務年限がある奨学金の受給者

勤務する地方の範囲(n=5)^{問8}



義務年限の経過状況(n=5)^{問9}

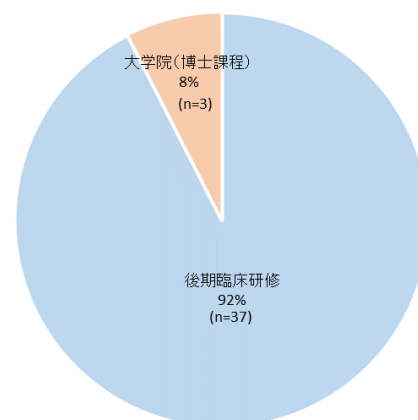


初期研修について

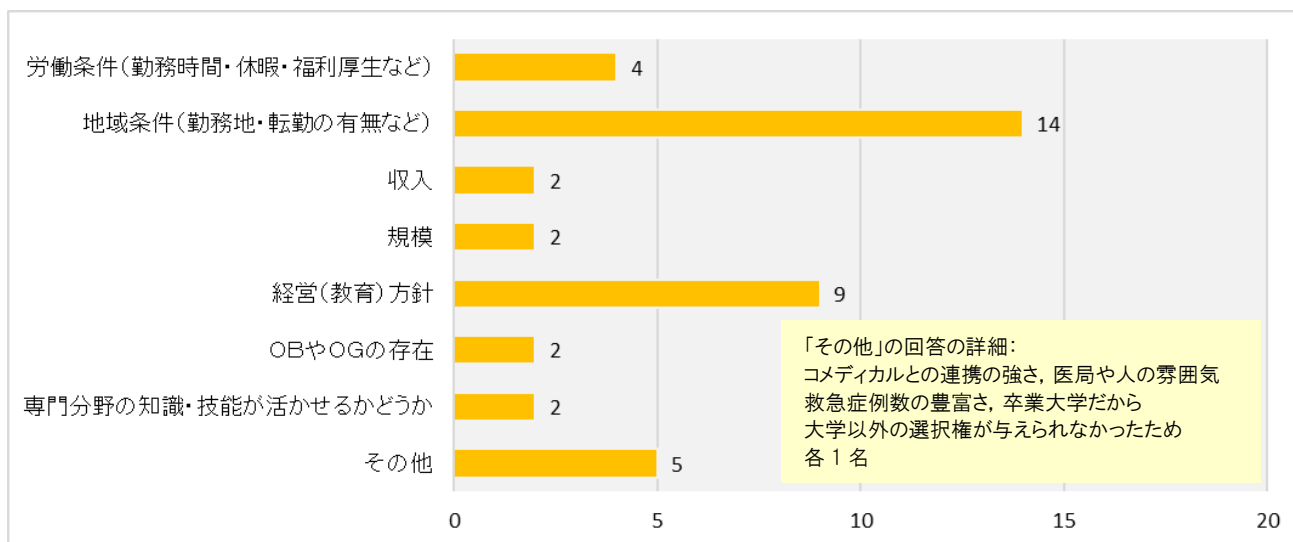
初期研修病院の市区町村(n=40) 問 10

	人数	割合
北海道内	28	70.0%
札幌市	4	10.0%
旭川市	18	45.0%
その他の市	6	15.0%
道内の町村	0	0.0%
道外	12	30.0%
道外の都市部	7	17.5%
都市部以外の市	5	12.5%
道外の町村	0	0.0%
合計	40	100.0%

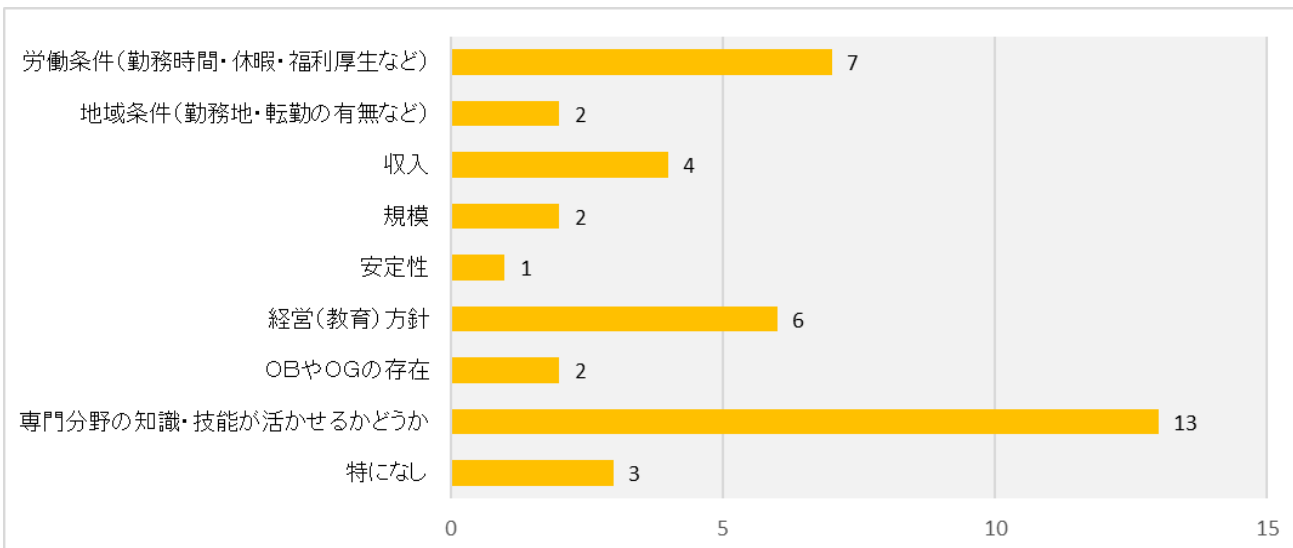
初期臨床研修終了後の進路(n=40) 問 13



初期臨床研修先を決定するにあたって、最も重視したこと(n=40) 問 11

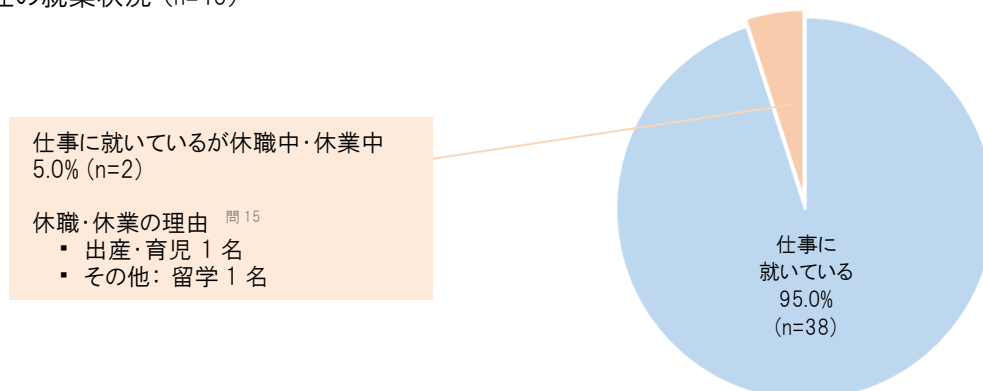


初期臨床研修先で実際に勤務して、予めもっと調べたり重視しておけばよかったと思ったこと(n=40) 問 12

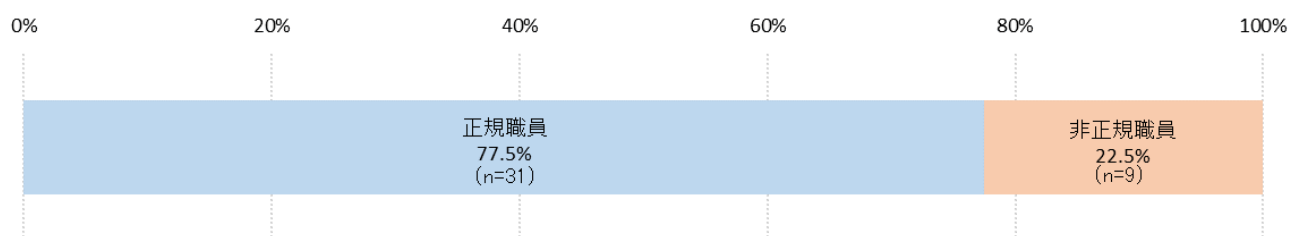


勤務先・役職について

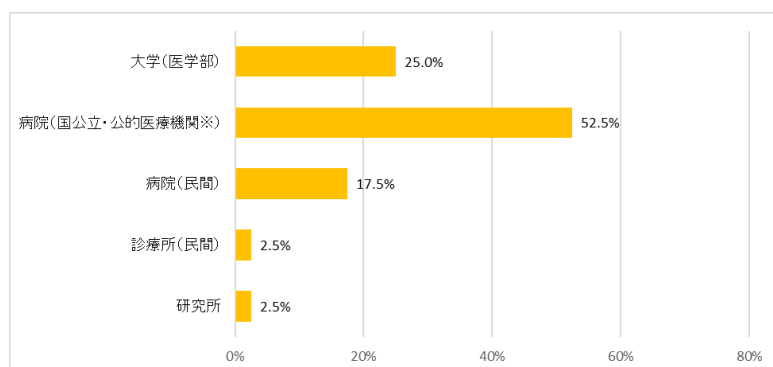
現在の就業状況 (n=40) 問 14



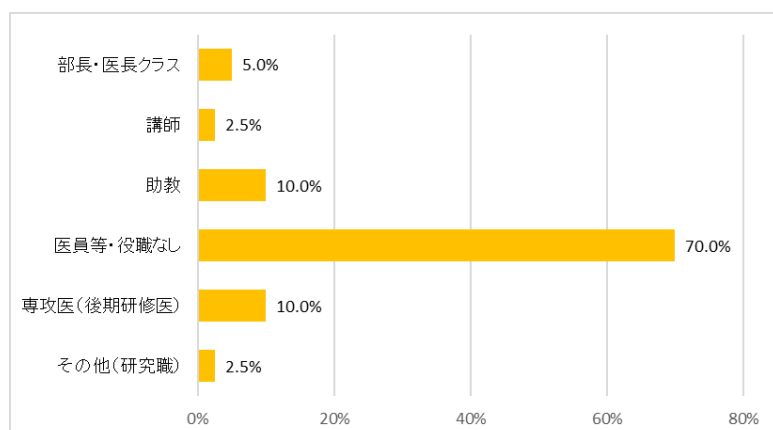
勤務形態 (n=40) 問 21



勤務先の種類 (n=40) 問 20



勤務先の役職 (n=40) 問 22

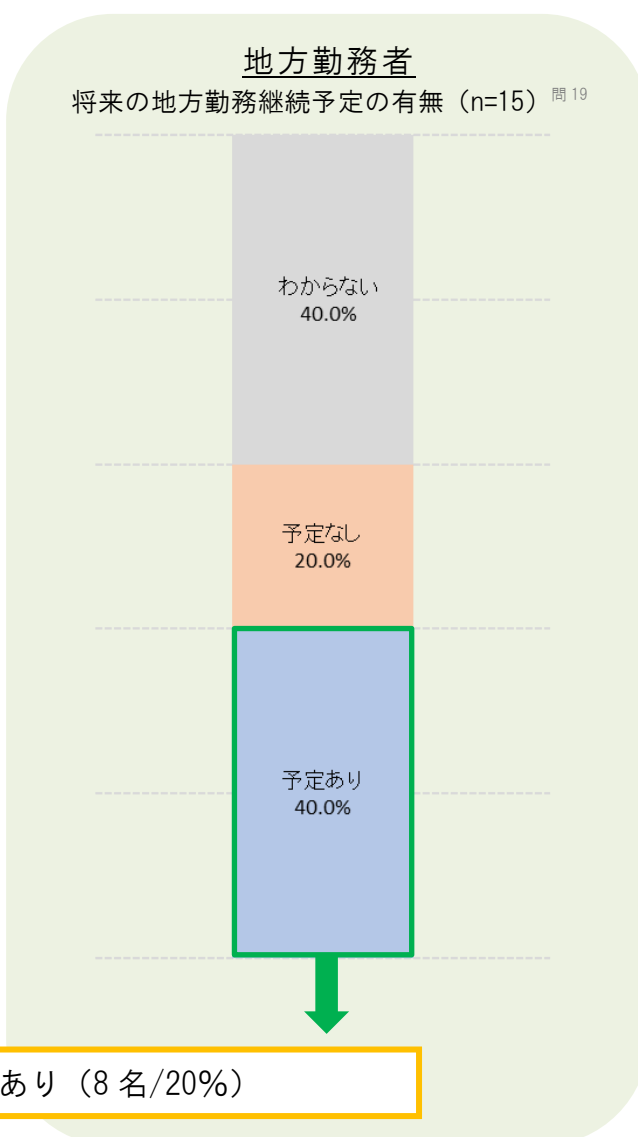
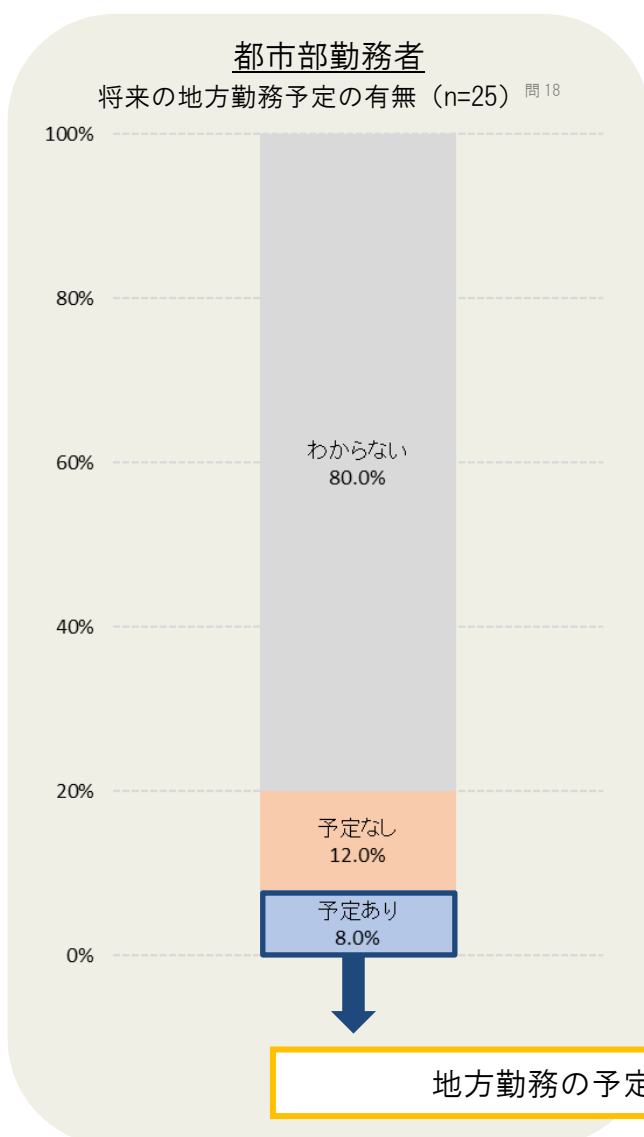


地方勤務の意思(現在の勤務地別)

都市部：特別区、道府県庁所在地、政令市、中核市、医科大学・医学部所在地
地方：都市部以外の地域

現在の勤務地の市区町村(n=40) 問 17

	人数	割合
北海道内	26	65.0%
札幌市	4	10.0%
旭川市	10	25.0%
その他の市	11	27.5%
道内の町村	1	2.5%
道外	14	35.0%
道外の都市部	11	27.5%
都市部以外の市	3	7.5%
道外の町村	0	0.0%
合計	40	100.0%



診療科・業務内容

現在の主な診療科(もしくは業務内容) (n=40) 問 23

	人数	割合
小児科	5	12.5%
麻酔科	4	10.0%
糖尿病内科(代謝内科)	3	7.5%
消化器外科(胃腸外科)	3	7.5%
整形外科	3	7.5%
産婦人科	3	7.5%
精神科	3	7.5%
循環器内科	2	5.0%
心臓血管外科	2	5.0%
皮膚科	2	5.0%
総合診療	2	5.0%
内科	1	2.5%
呼吸器内科	1	2.5%
腎臓内科	1	2.5%
脳神経外科	1	2.5%
泌尿器科	1	2.5%
リウマチ科	1	2.5%
研究職基礎医学の教員	2	5.0%
総計	40	100.0%

現在の仕事上、重要なもの(最大5つ選択) 問 26

項 目	n	%
医学に関する専門知識	37	92.5%
医学以外の分野における専門知識	2	5.0%
医学上の技術(スキル)	27	67.5%
医学以外の分野における技術(スキル)	27	67.5%
語学力	3	7.5%
書類作成能力(記録・資料・報告書など)	11	27.5%
問題発見能力	6	15.0%
論文作成能力	9	22.5%
新たな知識を素早く身に着ける力	6	15.0%
分析的に考察する力	11	27.5%
情報収集・情報処理能力	11	27.5%
観察・注意力	7	17.5%
発想力	1	2.5%
向上心	4	10.0%
コミュニケーション能力	25	62.5%
人間関係調整力	6	15.0%
プレゼンテーション能力	3	7.5%
リーダーシップ	0	0.0%
マネジメント能力	5	12.5%
時間・スケジュール管理能力	10	25.0%
忍耐力・粘り強さ	8	20.0%
その他	0	0.0%

現在仕事をするうえで不足しているもの(最大5つ選択) 問 27

項 目	n	%
医学に関する専門知識	19	47.5%
医学以外の分野における専門知識	11	27.5%
医学上の技術(スキル)	15	37.5%
医学以外の分野における技術(スキル)	5	12.5%
語学力	16	40.0%
書類作成能力(記録・資料・報告書など)	4	10.0%
問題発見能力	1	2.5%
論文作成能力	18	45.0%
新たな知識を素早く身に着ける力	9	22.5%
分析的に考察する力	6	15.0%
情報収集・情報処理能力	5	12.5%
観察・注意力	3	7.5%
発想力	7	17.5%
向上心	2	5.0%
コミュニケーション能力	6	15.0%
人間関係調整力	6	15.0%
プレゼンテーション能力	10	25.0%
リーダーシップ	9	22.5%
マネジメント能力	7	17.5%
時間・スケジュール管理能力	9	22.5%
忍耐力・粘り強さ	3	7.5%
その他	0	0.0%

(複数回答を重複計上)

教育・指導

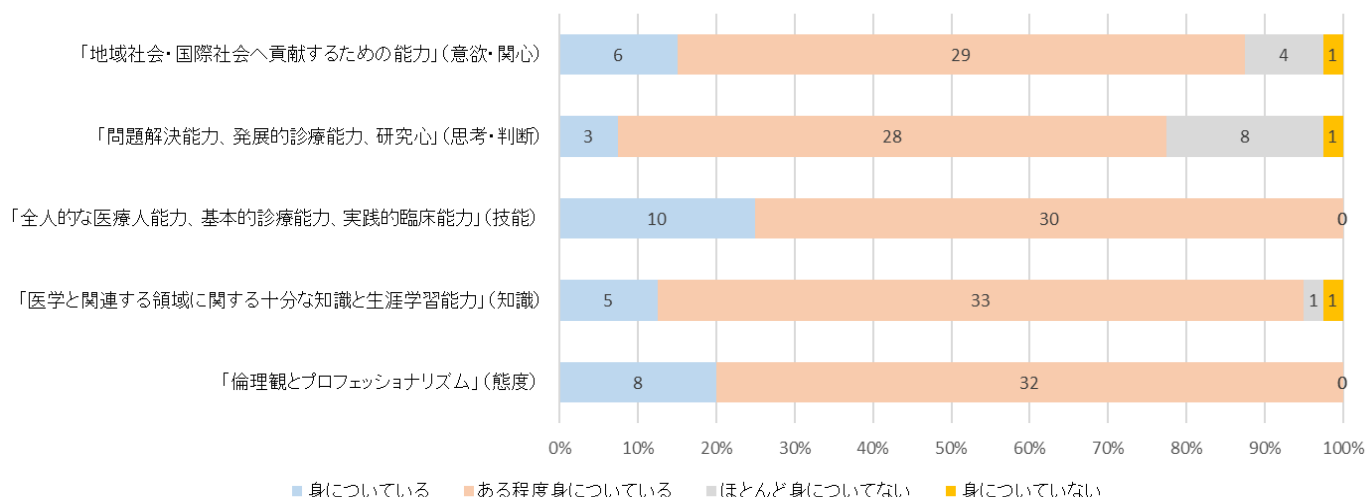
旭川医科大学でもっと重点的に教育・育成すべきだと思うもの(最大5つ選択)^{問 28}

項 目	n	%
医学に関する専門知識	17	42.5%
医学以外の分野における専門知識	4	10.0%
医学上の技術(スキル)	11	27.5%
医学以外の分野における技術(スキル)	4	10.0%
語学力	14	35.0%
書類作成能力(記録・資料・報告書など)	3	7.5%
問題発見能力	8	20.0%
論文作成能力	14	35.0%
新たな知識を素早く身に着ける力	8	20.0%
分析的に考察する力	14	35.0%
情報収集・情報処理能力	15	37.5%
観察・注意力	1	2.5%
発想力	2	5.0%
向上心	1	2.5%
コミュニケーション能力	13	32.5%
人間関係調整力	8	20.0%
プレゼンテーション能力	11	27.5%
リーダーシップ	1	2.5%
マネジメント能力	11	27.5%
時間・スケジュール管理能力	7	17.5%
忍耐力・粘り強さ	1	2.5%
その他	1	2.5%

(複数回答を重複計上)

旭川医科大学の医学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)の習得度(n=40)

ディプロマ・ポリシー	
「倫理観とプロフェッショナリズム」(態度)	生命の尊厳を尊重し、医の倫理を理解し、チーム医療に基づいた医療を実践できるための態度を身につけている。
「医学と関連する領域に関する十分な知識と生涯学習能力」(知識)	幅広い教養と基礎医学、臨床医学、社会医学の基本的知識を有し、それに基づいた医療を実践するために、生涯にわたる学習の必要性和その方法を説明できる。
「全人的な医療人能力、基本的診療能力、実践的臨床能力」(技能)	豊かな人間性を持って患者、患者家族と接することができる。患者の意思を尊重した適切な健康増進を図ることができるとともに医療を提供するための基本的診療能力を身につけている。急性もしくは慢性の健康問題について診断と治療の原則を理解し、安全性を配慮した上で計画できる。
「問題解決能力、発展的診療能力、研究心」(思考・判断)	基礎医学・臨床医学・社会医学領域における研究の意義を理解し、科学的 情報を収集し評価するとともに、客観的思考を持って診療に応用することができる。また、新たな情報を生み出すために倫理原則に基づいた論理的な研究計画を立案できる。
「地域社会・国際社会へ貢献するための能力」(意欲・関心)	医療に対する社会的ニーズを踏まえ、医療の実践、研究を通じて地域社会 及び国際社会に貢献する必要性和その方法を説明できる。



発行日:2025 年 7 月 22 日

※令和7年度第1回 IR 室全体会議にて報告済



本書に書かれた内容の無断転載・複製を禁じます